

マンガで描いた 三島の歴史

いっとうぎ ひでみつ
一藤木 秀光



なぜか知ってそうで知らない三島の歴史や名所旧跡や江戸時代の
三島宿などを分かりやすく楽しくマンガで描き解説しました。

(新装改訂版)

はじめに

「三島宿のジオと歴史～写真とマンガで見る～」企画展(2020年7月三島市郷土資料館にて)で展示した「マンガで描くふるさと三島」を、まとめて冊子にしたところ多くの方々にご笑覧賜り、第3刷まで完売致しました。

そして、この度、第4刷の発行となりました。発行に当たり更にページ数を増やし新装改訂版「マンガで描いた三島の歴史」として再発行することになりました。

なぜか知ってそうで知らない三島の歴史や名所旧跡や江戸時代の三島宿などを分かりやすく楽しくマンガで描き解説致しました。そして、マンガを見ながら解説文を読んで頂けるよう工夫し、絵本のようにしました。

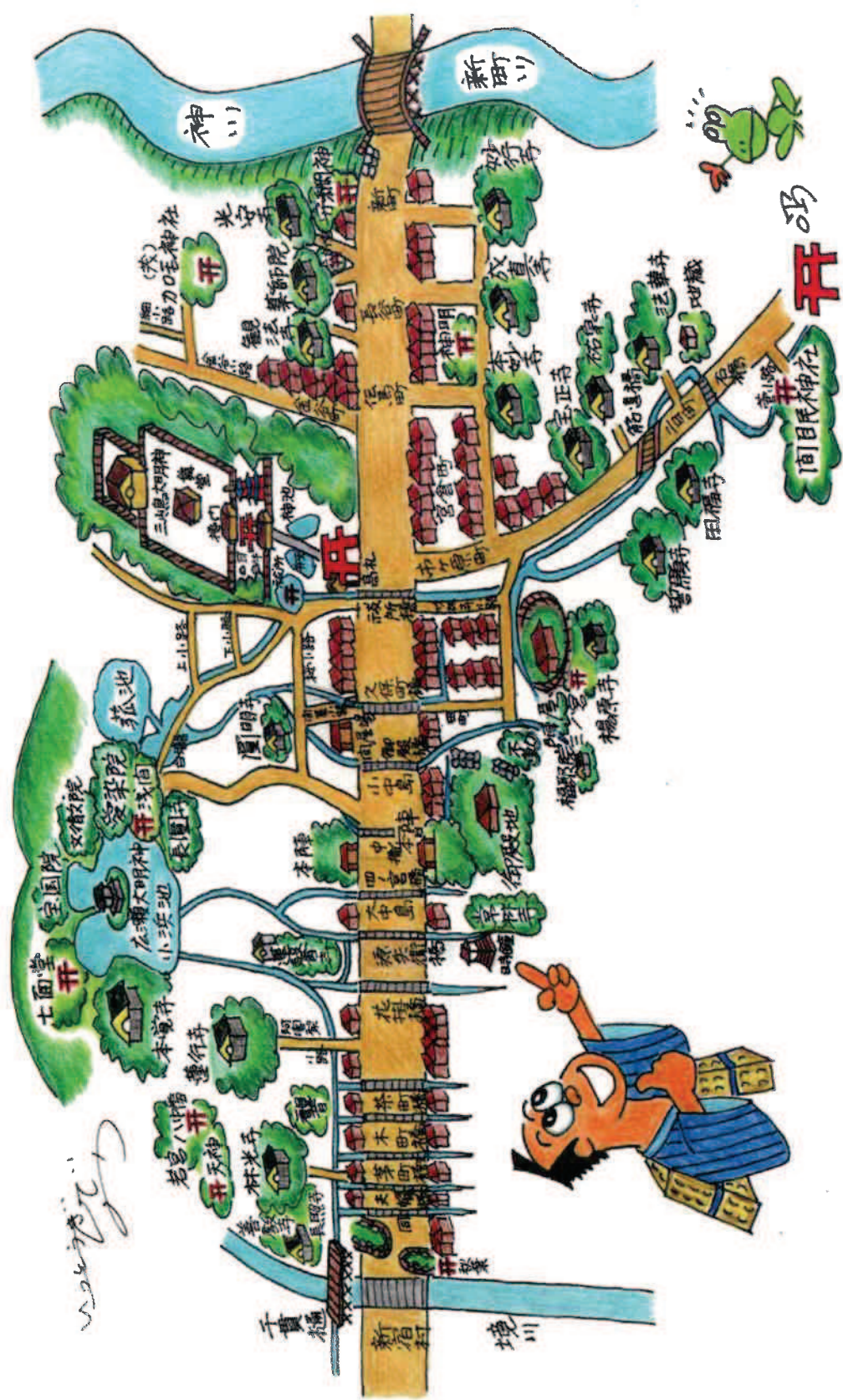
皆様に楽しんで、見て、読んで頂けたら幸いです。

著者



三島宿のジオと歴史～写真とマンガで見る～三島市郷土資料館にて

東海道分間延絵図三島宿 江戸時代(1800年頃)幕府が道中奉行に命じて作った地図をマンガで再現



プロローグ

小学校の頃、10歳の私は「ちばてつや」の「ちかいの魔球」に夢中になっていました。そして、中学生になった私は勉強せず夜な夜なマンガを描いていました。親は、毎日夜遅くまで勉強を熱心に行っているのに成績が悪いのは何故だと疑問を抱き、私の居ない時に机の引き出しを開けたらマンガが沢山出てきたのです。怒った親にマンガは全て没収されました。そして定年になったら「マンガを描いてやるぞ！」とずっと思っていました。そのきっかけが出来たのは定年後直ぐのことでした。三島市ふるさとガイドの会の案内に活用しようと思ったことです。それは、西見付けの火除け土手の江戸時代の絵図でした。お客様に火除け土手(食違い土手)の絵図を見せたところ、不思議な顔をしていました。「よく分からない！」と、言うのです。ならば「分かりやすく、楽しく」マンガで描けばいいと思った訳です。これが、私の「マンガで描いた三島の歴史」の始まりでした。

私のマンガを皆さんに説明するのに、よくお話しするのは、私のマンガは記号だということです。今のアニメとは違います。今のアニメは沢山のセル画を詳細に描いて人間に近づけようとしています。私のマンガは記号ですから人間から遠ざけてもいいわけです。むしろ遠ざけた方が記号としては役に立ちます。例えば、人物は全て2～3等身で、指をよく見ると四本しかありません。その方がマンガとしては、しっくりきます。因みに、ミッキーマウスの指も四本です。鳥や虫や魚などの生き物もリアルに描くと気持ち悪いものになりますが、マンガにすると愛らしくなります。そうはいっても、皇太子殿下と小松宮様の指だけは五本にしました(笑)。

それでは、箱根山西麓の日本100名城の一つ山中城から出発して、ユニークな名称の多い箱根西坂を下り、新町橋の東見付から三島宿に入り、西見付の千貫樋まで、マンガで三島の歴史を辿って行きたいと思います。(著者)



もくじ

山中城のパノラマ（山中城の全景）	4
山中城の戦い その1（岱崎出丸）	5
山中城の戦い その2（西櫓・西の丸）	6
箱根西坂 その1（こわめし坂）	7
箱根西坂 その2（臼転坂）	8
願成寺（古今伝授の寺）	9
東見付（石塁式の櫓形見付）	10
南見付（三島宿の南の入口）	11
守綱八幡神社（奈良時代の船溜り）	12
三嶋暦師の館（三嶋大社近くで暦を作っていた館）	13
間眠神社 その1（源頼朝ゆかりの神社）	14
間眠神社 その2（源頼朝ゆかりの神社）	15
三嶋大明神（神仏習合の時代）	16
三嶋大社（伊豆国一宮）	17
三島朝霧（広重「保永堂版 東海道五拾三次」）	18
大砲事件（三嶋大明神鳥居前）	19
魚半亭（三嶋大社神苑内の料亭）	20
豆相鉄道（明治の三島田町駅）	21
三島駅前（美しい富士山と三島由紀夫）	22
三島宿 その1（平旅籠・飯盛旅籠）	23
三島宿 その2（飯盛旅籠の夜）	24
三島宿 その3（問屋場と本陣）	25
楽寿園（楽寿館と小浜池）	26
七面堂（三島宿の観光名所）	27
浅間神社（溶岩止めた伝説）	28
源兵衛川 その1（世界かんがい施設遺産）	29
源兵衛川 その2（世界遺産の生き物たち）	30
時の鐘（三島宿に時を告げる鐘）	31
三石神社（稻荷社と秋葉社を祀る）	32
伊豆国分寺（七重の塔）	33
千貫樋 その1（三島宿の観光名所）	34
千貫樋 その2（三島女郎衆）	35
西見付（火除け土手と飛脚）	36
向山古墳群（16号墳の発見）	37
夏梅木古墳群（横穴式石室）	38
伊豆国の国府（国庁・国司の館）	39

やまなかじょう するがわん
山中城のパンorama（山中城からは駿河湾まで一望）

やまなかじょう するがわん
山中城のパンorama（山中城からは駿河湾まで一望）



やまなかじょう するがわん
山中城のパンorama（山中城からは駿河湾まで一望）

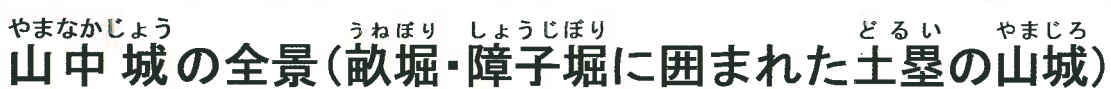
やまなかじょう うねぼり しょうじぼり どるい やまじろ
山中城の全景(畝堀・障子堀に囲まれた土塁の山城)

やまなかじょう うねぼり しょうじぼり どるい やまじろ
山中城の全景(畝堀・障子堀に囲まれた土塁の山城)

やまなかじょう うねぼり しょうじぼり どるい やまじろ
山中城の全景(畝堀・障子堀に囲まれた土塁の山城)

やまなかじょう うねぼり しょうじぼり どるい やまじろ
山中城の全景(畝堀・障子堀に囲まれた土塁の山城)

やまなかじょう うねぼり しょうじぼり どるい やまじろ
山中城の全景(畝堀・障子堀に囲まれた土塁の山城)



やまなかじょう

山中城の戦い その1 (岱崎出丸)

だいさき で まる



やまなかじょう

山中城は、戦国時代末期の後北条氏の山城で、岱崎出丸に

ごほうじょう し

やまじろ

だいさき で まる

は深くて滑る敵堀が巡らされていました。

うねぼり

天正18年(1590)後北条勢約 4000 人に対し豊臣秀次(とよとみひでつぐ)の率いる総勢約7万人の軍勢の攻撃により僅か半日で落城したと言われています。豊臣中央軍の中村一氏(なかむらかずうじ)・一柳直末(ひとつやなぎなおすえ)部隊の岱崎出丸や三の丸の攻撃により、山中城の戦いが始まりました。これに対し、後北条軍の間宮康俊(まみややすとし)は、僅か数百人の手勢を率いて岱崎出丸で迎え撃ったといわれています。この戦闘で、豊臣秀吉の信頼が厚かった一柳直末は流れ弾により戦死、必死に防戦した間宮康俊も戦死しました。勇敢な二人は三の丸跡の宋閑寺(そうかんじ／徳川家康の計らいで建てたと伝わる)に眠っています。

やまなかじょう
山中城の戦い その2 (西櫓・西の丸)



西櫓と西の丸の間には障子堀と敵堀が巡らされ西の丸は更に高くなっており攻撃がしにくい造りになっていました。

豊臣軍の徳川家康以下約三万人の左翼軍と、西櫓・西の丸で銃撃戦が展開されました。この時代の火縄銃の射程距離は100m以内とされていますが、鎧(よろい)の鉄板を貫通させるには50m以内とも言われています。豊臣軍は、関東ローム層の赤土で滑りやすい障子堀と敵堀に難攻しましたが、戦いはやがて二の丸・本丸へ移り、後北条氏軍は約4千人、豊臣軍は約7万人、という圧倒的な数の前に、後北条氏軍は程なく壊滅します。山中城将の松田康長(まつだやすなが)も戦死して、山中城は陥落、後北条側の戦死者は約2千人とも伝えられ、戦国時代最大の攻城戦と言われています。山中城は、土塁の山城ですが日本100名城の一つです。

はこねにしざか

箱根西坂 その1 (こわめし坂)



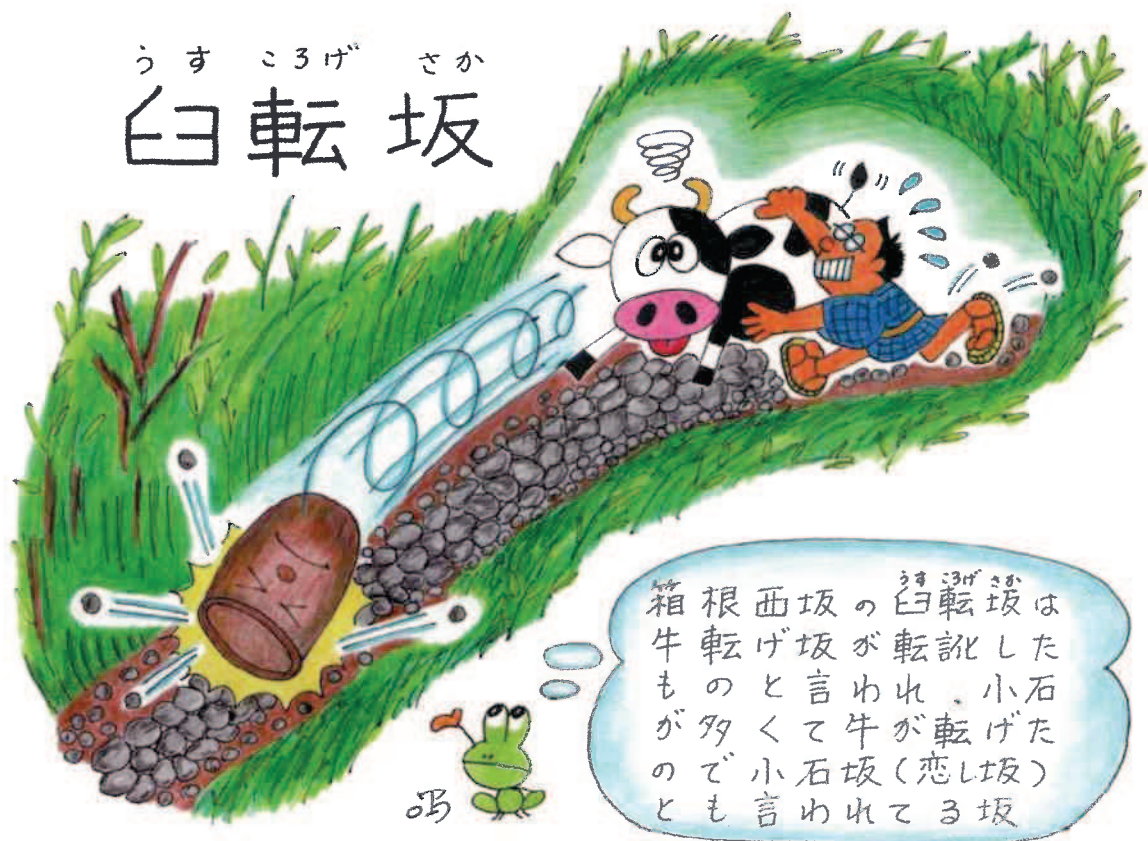
はこねにしざか

箱根西坂の、こわめし坂は難所中の難所だった。

こわめし坂のこわめし(強飯)は蒸した飯(おこわ)のこと。

こわめし坂は三ツ谷新田(みつやしんでん)から笹原新田(ささはらしんでん)にかけての街道にあります。「三ツ谷新田・こわめし坂」の道標(みちしるべ)が目印です。さて、なぜこの名前がついたのかというと、昔の人はこの坂を登るのに大変疲れるので、強飯を食べて力をつけて登ったそうです。また、こわめし坂は長い坂なので、坂道を登り詰めると汗びっしょりになり、汗と熱で背負っていた米が蒸されて強飯になったからとも言われています。アシスタントのカエル君も真っ赤になっています。箱根西坂のこわめし坂は箱根八里の中でも難所中の難所でした。人だけでなく馬も大変だったでしょう。また、箱根西坂には富士見平と呼ばれる富士山の展望のよい場所があります。そこには芭蕉の句碑があります。「霧しぐれ 富士を見ぬ日ぞ 面白き」です。箱根関所を越え、この場所辺りで詠んだ面白き句です。

はこねにしざか うすころげざか
箱根西坂 その2 (臼転坂)

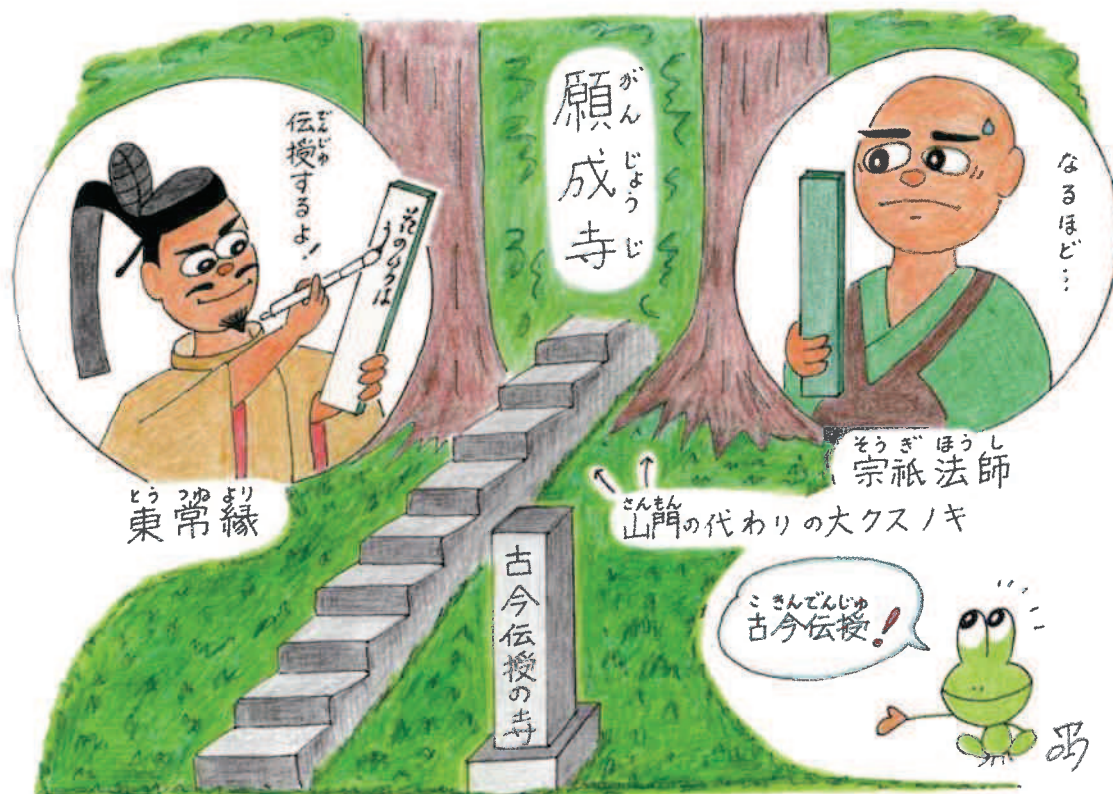


うすころげざか うす
臼転坂とは、臼が転げる坂という意味です。

うしころ こいし こい
牛転げ坂とか、小石坂や恋し坂とも言われていました。

こわめし坂と同じ箱根西坂の坂です。名前の由来は、牛を引いてこの坂を下っていた時に牛が転げたので「牛転(うしころげ)坂」それが訛(なま)って「臼転(うすころげ)坂」になったという説や、実際に臼(うす)も転げたという説があります。もう一つは、この坂は小石が多くて、小石と一緒に牛が転げたので「小石(こいし)坂」が訛って「恋し(こいし)坂」となったと言う説もあります。いずれも牛ですね。多分、牛が重い臼を運びながら、よく転んだのでしょう。箱根西坂には面白い名前の坂が多くあります。大時雨(おおしぐれ)坂や小时雨(こしぐれ)坂など雨に因んだ名前の坂もあります。箱根八里(箱根旧街道)は、江戸時代に整備された東海道です。箱根宿から三島宿までは半分の四里で、箱根西坂と呼ばれる街道の難所でした。

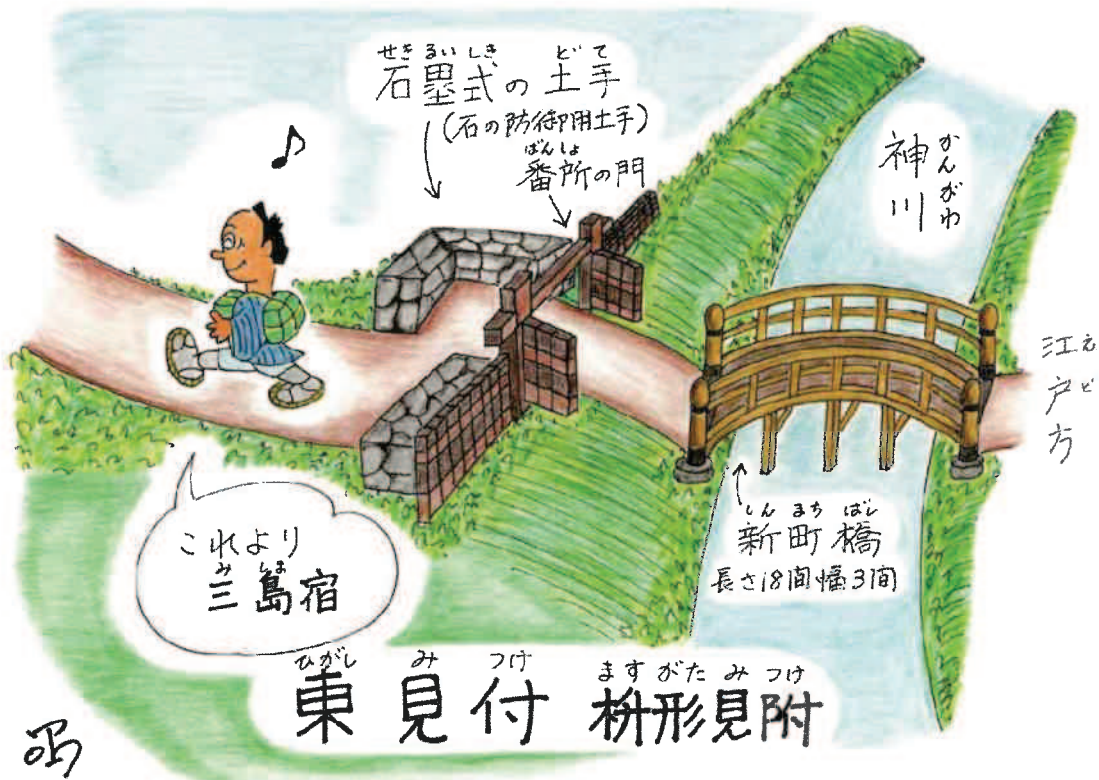
がんじょう じ こきん でんじゅ
願成寺（古今伝授の寺）



室町時代に、この願成寺で古今和歌集の秘説が連歌師の
そうぎ ほうし こきん でんじゅ
宗祇法師に伝授（古今伝授）されたと言われています。

東常縁(とうつねより／武士・歌人)は、將軍足利義政(あしかがよしまさ)の命令で堀越公方(ほりごえくぼう)の警護のため河原ヶ谷(かわらがや)城に来ました。堀越公方(足利政知)は將軍と兄弟でした。連歌師の宗祇法師は東常縁から古今和歌集の秘説の伝授を受けに河原ヶ城に来ます。その時に東常縁の子息竹一丸(たけいちまる)が風邪を患い、宗祇法師は竹一丸の病氣平癒のため三嶋大明神に連歌の発句(ほっく)を奉納祈願します。すると病氣が快復に向かったので宗祇法師は3日間で千句独吟して三嶋大明神に奉納しました。それを三島千句と呼び、その写本が今も残っています。古今伝授では百人一首も伝授されたと言われています。

ひがしみつけ せきるいしき ますがた
東見付（石塁式の柵形見付）

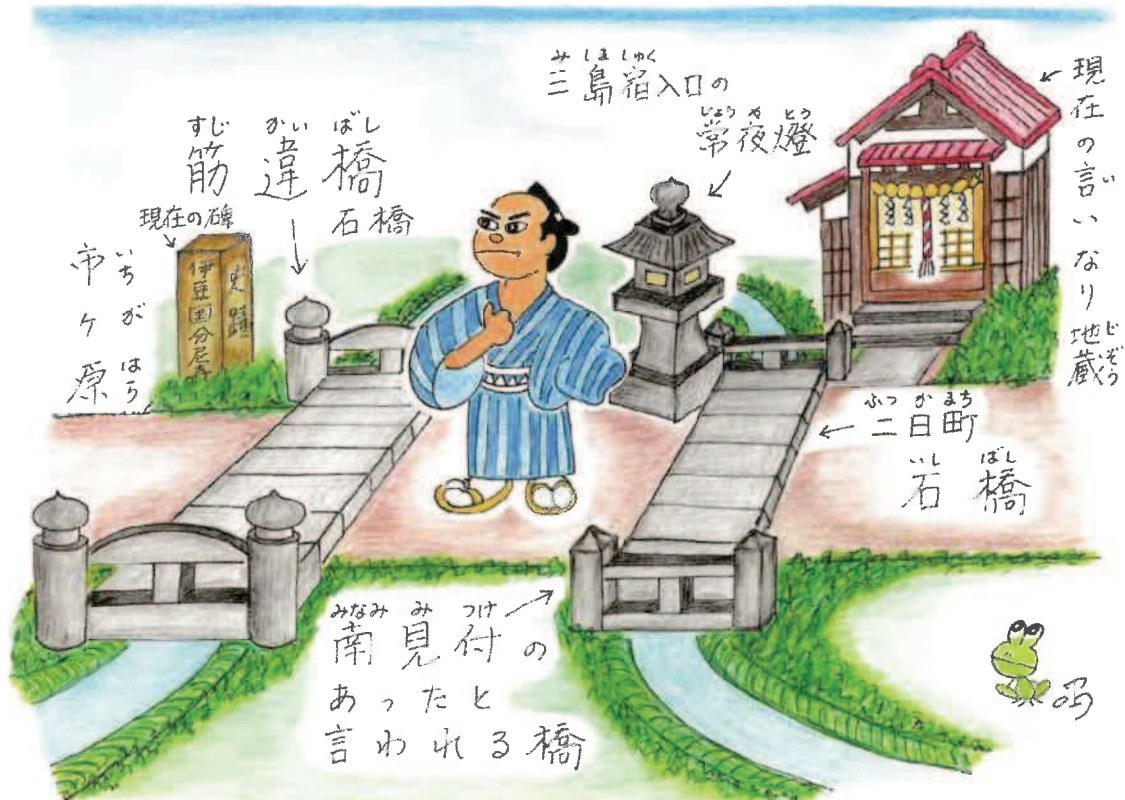


箱根西坂を下って三島宿の入り口です。昔の平面の絵図では分かりにくいと言われマンガにしました。

東見付(ひがしみつけ)には柵形(ますがた)をした石の防御用土手があります。真っすぐ「三島宿」に入れないように築かれたものです。昭和30年(1955)に道路拡張により取り壊されました。新町橋(しんまちばし)を渡り東見付を無事通り、旅人がルンルン気分で三島宿に入って行きます。幕末から明治維新の頃に描かれたと思われる街道絵図には門が描かれているので、その頃は門番が朝夕に開閉していたかもしれません。また、新町橋を渡ると直ぐに急坂で、三島大社に向う途中の守綱八幡神社あたりまでの道も坂でした。それから、橋の袂(たもと)には「さらし首」がありました。処刑場は三島駅北口辺りにあった小浜山処刑場でした。江戸や箱根から来る悪人を戒めるため東見付に置かれていたと思われます。その罪人を供養した「無縁(むえん)法界地蔵」が、新町橋の手前に今も残されています。

みなみ みつけ

南見付（三島宿の南の入口）



みなみ みつけ

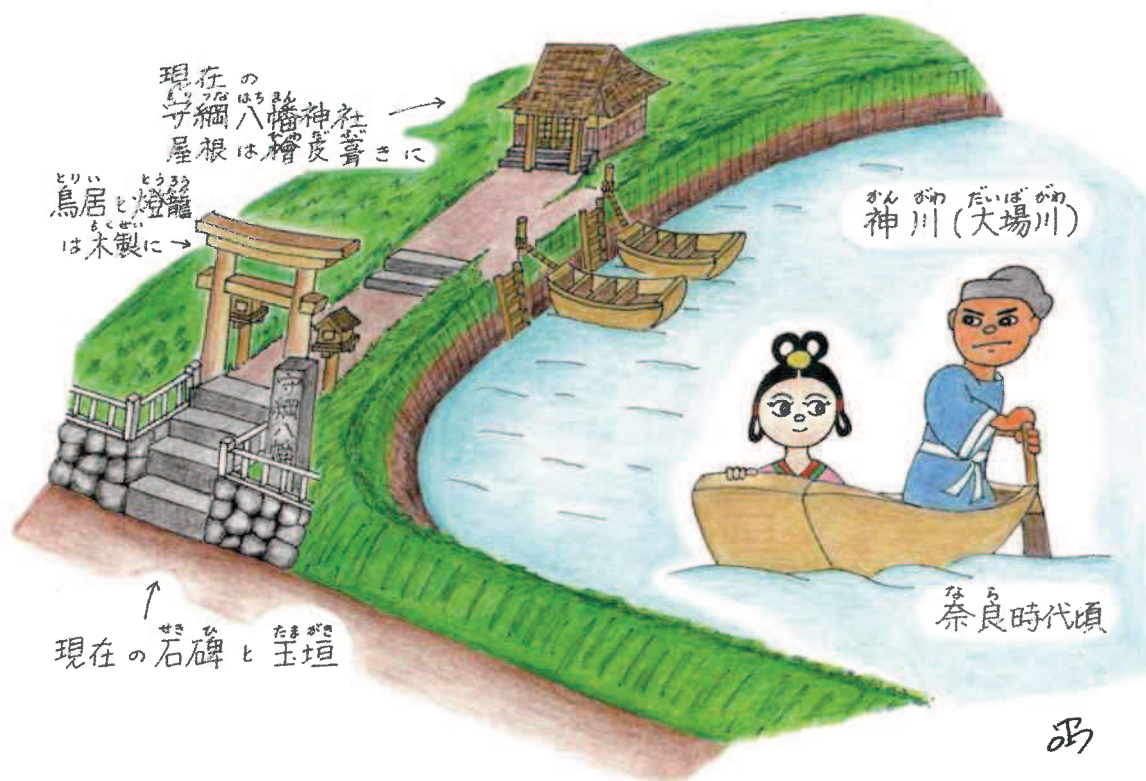
いいなり じぞう

あた

南見付は、現在の「言成地蔵」の横に架けられた石橋の辺りにあったと言われています。そして、その先の市ヶ原にあった筋違橋という橋は道に斜めに架かった橋のことです。

残された絵図などは全くありません。「根府川通(ねぶかわどおり)見取絵図」の三島宿南入り口付近の図を手掛かりに描きました。根府川通りは三島から函南、熱海を経緯して小田原の根府川へ行く街道でした。そして、現在の「言なり地蔵」の前にあった二日町石橋あたりに南見付があったと言われています。「筋違橋(すじかいばし)」は、昭和初期の杉田呑山(すぎたどんざん)の絶句(ぜっく)「三島竹枝(みしまちくし)」第23詩「あの人は筋違橋辺り」に、遊女の想いが筋違橋に例えて詠われています。好いたお方を待ちわびる情景が目浮かびます。と、言うことで、粋(いき)な鯉柄(かつおがら)の着流し(きながし)のいい男を描きました(笑)。

もりつなはちまん ふなだま
守綱八幡神社（奈良時代の船溜り）



奈良時代、このあたりは船溜りで、船をつなぐ綱「守綱」
 (船の安全)を祀ったものと考えられますが、諸説あります。

「夢も濡れま〜しよ 潮風夜風♪」と気持ちよく「船頭可愛や」を歌いながら江戸時代の船頭と粋な芸妓のマンガを描いていたら、静岡県地学会の増島淳先生に「一藤木さん、これは奈良時代ですよ」と言われ、描き直しました(笑)。奈良時代、三島に伊豆国府が置かれた頃の河床面は現在よりも高く、現在の神社いっぱい蛇行して流れていたと考えられています。今でも、道路が緩やかな坂になっているのが分かります。また神社の境内の東側が急に低くなっているのも分かります。渡辺半蔵守綱(わたなべはんぞうもりつな)祭神説もありますが、文政8年(1825)頃の絵図には「綱神社(つなじんじゃ)」とされ綱(つな)を守る守綱神が有力です。

みしまこよみし やかた

三嶋曆師の館（三嶋大社近くで曆を作っていた館）



日本最古の^{かな もじ}仮名文字で印刷した^{こよみ}曆と言われていました。

三嶋曆はおそらく鎌倉時代の頃から河合家により作られていたといわれる曆です。河合家は現在も続いています。昔の曆は太陰太陽曆でした。太陰曆は月の満ち欠けによりますが、一カ月が 29.5 日なので季節がズレて来てしまいます。そこで太陽曆(365.25日)を24分割した二十四節気により調整していました。なぜこんな面倒な事と言うと、昔の生活は太陰曆の方が便利な点があったからです。太陰曆では、月を見れば今日が幾日か分かりました。例えば、15日は必ず十五夜(満月)です。8日は上弦の月といい、弓の弦が上になった形の半円の月です。その前日の7日(七夕/たなばた)の月は、その上弦の月が少し欠けた月の舟に織姫(おりひめ)が乗って牽牛(けんぎゅう)に逢いに天の川を渡ります。ロマンチックですね。

まどろみじんじゃ

みなもとのよりとも

間眠神社 その1 (源 頼 朝 ゆかりの神社)

源頼朝が、源氏再興の旗揚げ^{はたあ}を祈願して、三嶋大明神に百日
祈願した際に仮眠^{まどろむ}（間眠）したと伝えられる神社。

昔、昔、伊豆の萑山(にらやま)の長崎(ながさき)に稲荷神の祠(ほくら)がありま
した。ある時、狩野川が氾濫して洪水が起こり、萑山の長崎から三島の二日町(ふ



つかまち)に
祠が流されま
した。長崎の
人々は祠を探
しに来ましたが、祠が動か
ないのであき
らめて、松の
木の横に、そ
のまま置くこ
とにしました。

時が経ち、源頼朝は源氏再興のため三嶋大明神に百日祈願のお詣りに来ます。



頼朝は萑山の蛭が
小島(ひるがこじま)
に流されてから20
年が経ち34歳に
なっていました。昔
し流れて来た祠を
通り三嶋大明神(三
嶋大社)に祈願を
繰り返していまし
た。丑の刻(うしの
こく)参り(午前2時
~3時頃)でしたの
で眠くなることも
度々ありました。

まどろみじんじや

みなもとのよりとも

間眠神社 その2 (源 頼 朝 ゆかりの神社)

源頼朝は、度々この祠(ほくら)の松の木の下で仮眠したと伝えられています。仮

眠しながら平氏打倒の旗揚げの夢を見たのかもしれませんが。その夢はやがて実現されます。治承4年(1180)の8月17日三嶋大明神祭礼の最後の夜、平氏の山木兼隆(やまきかねたか)を討ち、旗揚げに成功したのです。



その5年後、元暦2年(1185)3月24日頼朝は平氏を最後の戦いになった下関の壇ノ浦(だんのうら)で破り日本一の武士となり、鎌倉幕府を創設します。仮眠した夢が実現したのです。頼朝が旗揚げの夢を見た祠のあった松の木を「まどろみの松」とい

い、間眠(まどろみ)神社の名前の由来になったと伝えられています。間眠神社は、日本でも非常に珍しい名前の神社です。



みしまだいみょうじん しんぶつしゅうごう
三嶋大明神（神仏習合の時代）



明治4年に制定された社格制度により官幣大社（三島神社）

となる前は三嶋大明神といい神仏が共に祀られていました。

三嶋大明神の頃は、神仏習合の時代で仏教建築の象徴とされる三重塔がありました。源頼朝の旗揚げ以来、武士の崇敬も篤い神社でした。また東海道に面し、伊豆地方の玄関口として下田街道の起点に位置し、甲州街道にも通ずる、交通の要所でした。伊豆国の一宮として三嶋大明神の名は広く天下に広まり、江戸時代には東海道の観光名所となっていました。北条政子の奉納と伝わる、国宝「梅蒔絵手箱（うめまきえてばこ）及び内容品一具」は当時の最高技術を結集したものとして残されています。また国宝の上杉太刀や重文の北条太刀も奉納されたと伝わります。

みしまたいしゃ いずのくにいちのみや
三嶋大社（伊豆国一宮）



みしまたいしゃ みしまだいみょうじん えんぎしき じんみょう
三嶋大社(三嶋大明神)は延長5年(927)「延喜式神名
帳」に記されている名神大社で伊豆国の一宮です。

伊豆大島や三宅島(みやけじま)等の伊豆諸島の開拓神とされています。永承5年(1050)頃に下田(賀茂郡)から北遷(ほくせん)して来たとも言われています。源頼朝が源氏再興のため三嶋大明神に百日祈願し、その願いを成就した神社として多くの武家から崇敬された神社です。そのシンボル大鳥居は瀬戸内海から運ばれた白御影石(しろみかげいし)で造られています。祭神は大山祇命(おおやまつみのみこと)と事代主神(ことしろぬしのかみ)の二柱です。神池(しんち)の西側にある大楠(おおくすのき)は三嶋七木の一つと言われ、唯一現存している御神木です。パワースポットになっています。そのほか、たたり石や頼朝と政子の腰掛石、神馬舎(しんめしゃ)、樹齢1200年と伝わる金木犀、神門や舞殿や拝殿の彫刻や日本でも一二の高さを誇ると言われている荘厳な本殿など見どころが多々あります。

みしまあさぎり ひろしげ

三島朝霧(広重「保永堂版 東海道五拾三次」)



1832年(天保3年)広重は幕府の命で京都に同行 東海道を上り見聞したと言われる

うたがわひろしげ

あんどう じゅうえもん

歌川広重 (本名は安藤重右衛門) の有名な三島宿の

みしまあさぎり

版画の「三島朝霧」をマンガで描きました。

三嶋大明神は三島のシンボルです。有名な歌川広重が、その三嶋大明神の鳥居の前を朝霧(三島は湧水が多く水温が一年を通して一定だったため、外気と湧水との温度差で霧や靄が発生していた)に包まれて旅立つ様子を見事に描いた傑作です。それをマンガにするとはい…それには訳があります。広重の絵をどう見ても朝霧が描かれていません。なのに、朝霧のイメージがバッチリ浮かんできます。広重は、鳥居や旅籠や通行人をシルエットで、然も濃淡を使い、馬上の旅人も手を隠す等で朝霧を表現しました。だから広重の絵は凄いんだ！と、いうことを証明するためにも、マンガでは真逆にシルエットを使わず、しっかり線で表現し、旅人も手を出し、朝霧もしっかりと描き、版画の技の一文字ばかりもマンガで再現しました。

たいほうじけん みしまだいみょうじん
大砲事件（三嶋大明神鳥居前）



慶応4年（1868）新政府軍と旧幕府軍による戊辰戦争^{ほしん}の中で起きた三嶋大明神前の事件です。

三島にも戊辰戦争の波が押し寄せました。旧幕府遊撃隊（ゆうげきたい）の人見勝太郎（ひとみかつたろう）が自軍を率いて江戸に向かう時、三嶋大明神前に新政府軍によって、にわか作りの関門（かんもん）が置かれていました。旅籠（はたご）松葉屋（まつばや）では関門長の松下嘉兵衛（まつしたかへい）が通行を阻止した為、人見隊は大鳥居前に大砲2砲を構え威嚇（いかく）したのです。一触即発の危機に問屋役（といややく）の世古六太夫（せころくだゆう）と宮司の矢田部盛治（やたべもりはる）がうまく取り計らい、松下嘉兵衛を新政府軍の佐野陣屋（さのじんや）に報告に行かせ、関門を開ける機転で事なきを得ました。

ぎよはんてい しんえん りょうてい
魚半亭（三嶋大社神苑内の料亭）



江戸時代から三嶋大社の神苑内で食事や旅舎を提供した
料亭です。明治から大正初期の「魚半亭」を再現しました。

これを再現できたのは、瀬川宏(せがわこう)さんとの出会いからでした。瀬川さんはピアノの調律師(ちょうりつし)で20世紀最大のピアニストと言われるリヒテルやミケランジェリの調律師として長年ドイツを中心に世界で活躍された方です。そのご実家が「魚半亭」だったのです。瀬川家に残る貴重なスケッチにより再現しました。魚半亭には、明治・大正・昭和の多くの著名人が立ち寄ったそうです。神苑内の魚半亭離れ家の一つ「楠亭(くすのきてい)」は昭憲皇太后(しょうけんこうたいごう／明治天皇のお后)お気に入りの「離れ」で、ここで昭憲皇太后は魚半亭特製の「栗きんとん」を賞味したと言われています。もう一つの離れは「蓮月亭(れんげつてい)」で川床のような造りでした。また、魚半亭の本館の前の玉垣には「上り口(のぼりぐち)」という木の門があって、神苑内に入れるようになっていました。

ずそうてつどう みしまたまち
豆相鉄道（明治の三島田町駅）



みしままち みしまたまちえき じょうききかんしゃ
三島田町駅は現在の三島田町駅のことで蒸気機関車とチ
ンチン電車が一緒に停車していました。

「汽笛一声新橋を…♪」で有名な鉄道唱歌が生まれたのは明治33年(1900)5月です。ところが、豆相鉄道唱歌が生まれたのは明治33年10月で、5か月しか差がありません。豆相鉄道唱歌は、歌詞が30番まである大作です。豆相鉄道は伊豆鉄道(いずてつどう)、駿豆鉄道(すんずてつどう)など何回か会社名が替わり、昭和32年(1957)に現在の伊豆箱根鉄道となりました。このマンガの頃、三島駅は現在の御殿場線下土狩(しもとがり)駅が三島駅でした。チンチン電車は今の旧道を沼津駅まで走っていました。明治40年、昭和天皇が皇太子の頃に弟君(秩父宮様)や、ご学友と官幣大社三島神社や小松宮彰仁(あきひと)親王の別邸を訪れたお帰りに、ご乗車されたチンチン電車が脱線した記録が残っています。その後は電車はやめて馬車にしたようです(笑)。

三島駅前（美しい富士山と三島由紀夫）



三島駅は駅舎が、後方に見える美しい富士山の形と似ています。そして駅前には自然林と湧水が広がります。

昭和16年(1941)平岡公威(ひらおかきみただけ)という学習院中等科の16歳の文学の天才の名が「三島由紀夫(みしまゆきお)」となった由来は、学習院の国語教師の清水文雄先生が、文壇にデビューさせるためペンネームを考えている時、編集会議が伊豆の修善寺の新井旅館であったことに由来します。清水先生は、会議に出席するため三島駅で駿豆線(伊豆箱根鉄道)に乗り換えた時に、「三島駅から見た美しい富士山の雪景色」により三島と雪で「三島ゆきお」を思いついたそうです。この話は、日大名誉教授の藤岡武雄先生が清水先生から直接聞いたと著書に書かれています。そして三島駅前には、自然林の楽寿園(らくじゅえん)があります。しかも 国の天然記念物と国の名勝(めいしょう)と世界ジオパークのジオサイトを併せ持っているのです。新幹線の止まる駅前と思えない自然林と湧水の美しい町です。

三島宿 その1 ^{ひらはた ご}（平旅籠・^{めしもりはた ご}飯盛旅籠）



町

^{はた ご}三島宿は旅籠が74軒の他、^{きちんやど}木賃宿も多くあった。

二階建ての木造の旅籠(はたご)がズラリと並んでいます。三島宿は箱根を越えなければならないので一泊する旅人が多く、旅籠(はたご)はいつも賑わっていました。旅籠には大きく分けて、平旅籠(ひらはたご)と飯盛旅籠(めしもりはたご)とがありました。平旅籠は普通の健全な宿屋です(笑)。飯盛旅籠には飯盛女(めしもりおんな)又は飯売女(めしうりおんな)更には女郎(じょうろう)とも言われた女性が付きました。そのほか料金の安い木賃宿(きちんやど)もありました。木賃宿は、木を買う、薪を買う、詰まり自炊する宿のことです。木賃宿は、明治以降は粗末な安宿のことの意味に使われました。マンガの旅人は、旅の疲れも見せずに、待ち合わせたのでしょう、二階の友達にピースサインを送っています。飯盛女も手を振っています。江戸時代の三島宿は、とても楽しそうです。どうやら旅人は、今日は、この飯盛旅籠に友達と泊まるようです。そうすると、飯盛り旅籠の夜も興味津々です。

三島宿 その2 めしもりはたご（飯盛旅籠の夜）



めしもりおんな めしうりおんな じょうろ しゃく
飯盛女（飯売女、女郎）がお酌をしています。

旅籠の料理は、平均して一汁二・三菜だったそうです。想像するに、焼き魚・煮物・たくあん・ご飯・味噌汁といったところでしょうか。飯盛女とは文字通り宿泊客の食事の世話をする女性のことですが、遊女としての一面もありました。幕府は遊女を置くことを禁止していましたが、半ば黙認されていたようです。これは飯盛旅籠の夜のマンガです。飯盛女がお客にお酌しています。隣のお客は手酌で、横目で見えています…ちょっと可哀想ですね。ところで、三島の「飯盛女」は美人が多いと評判でした。弥次さん喜多さんも「明日は三島宿だよ～！」と、喜んでいたようです。何故かという、戦国時代に豊臣秀吉が小田原城攻めをした時に兵士の慰安のため京や大阪から美人を集めたそうです。兵士が居なくなったあと、三島宿で飯盛り女や女郎衆になったと思われます。三島女郎衆は「農兵節」の歌でも有名です。

三島宿 その3 ^{といやば}（問屋場）^{ほんじん}（本陣）



「問屋場」^{といやば}は今の三島中央町郵便局の場所にありました。

いつも思うのですが、三島の中央郵便局の横の路地に、「問屋場跡」という案内看板が一つあります。と、言うより看板しかありません。そこで問屋場の案内をする訳なのですが、このマンガを使うとお客様はとても喜びます。マンガの威力が発揮です。問屋場は馬と馬を扱う人足の手配をする所です。ここで旅人は受付をします。そして、馬指(うまさし)・人足指(にんそくさし)役が馬と人足を手配します。軽尻(からじり)は人だけ(手荷物は可)乗せます。乗掛け(のりかけ)は荷物20貫(約75kg)と人を乗せます。三島宿は箱根山を越えるので、馬も人足も大変でした。特に、「乗掛け」は大変で、20貫の荷物と人を乗せて運んだので、マンガの馬も嫌がっています(笑)。「本陣(ほんじん)」は今の本町の交差点を挟んで北と南に「世古(せこ)本陣」と「樋口(ひぐち)本陣」とがありました。世古本陣の門は「長圓寺(ちやうえんじ)」に、樋口本陣の門は「圓明寺(えんみょうじ)」に今も残されております。

らくじゅえん らくじゅかん こはまがいけ
楽寿園(楽寿館と小浜池)



こまつみやあきひとしんのう らくじゅかん こはまがいけ

小松宮彰仁親王別邸(楽寿館)と小浜池に浮かぶボートに乗った15歳の皇太子殿下(昭和天皇)。

現在の楽寿園の小浜池(こはまがいけ)周辺は、明治23年(1890)頃小松宮彰仁親王が別邸の庭園として整備しました。親王には跡継がおられなかった為に明治44年(1911)日本が併合した大韓帝国の李垠(りぎん)皇太子の別邸となります。それにより昌徳宮(しょうとくきゅう)と呼ばれていました。李垠皇太子は日本の梨本宮方子(なしもとのみやまさこ)さまとご結婚されます。方子さまは日韓の架け橋となった立派な皇后さまでした。また、昭和天皇は、皇太子となる15才頃までは時々ボート遊びなどに訪れています。昭和2年(1927)、造船業を営む三島の素封家緒明圭造(おあきけいぞう)氏が購入、戦後一時米軍に接收されますが、昭和27年(1952)に「楽寿園」となりました。この頃は小浜池も水が豊富でした。

しちめんどう

七面堂（三島宿の観光名所）



らくじゅえん

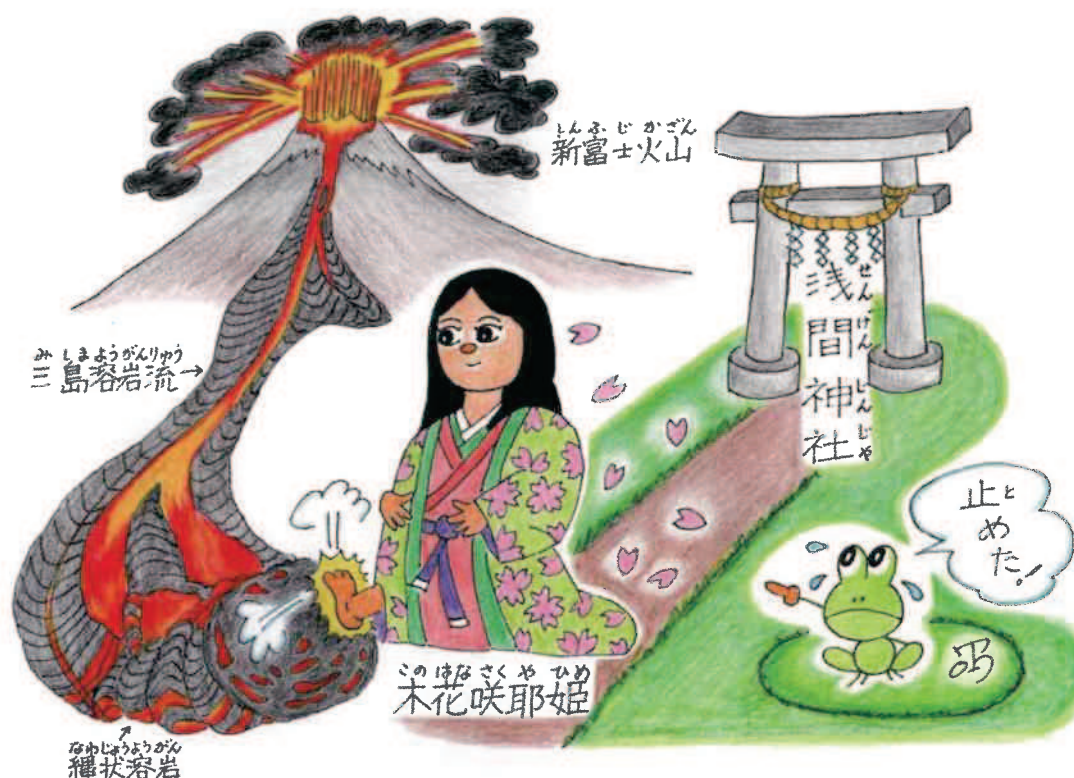
こはまがいけ

しちめんだいみょうじん

楽寿園の小浜池北に七面大明神のお堂が建っていました。

明治23年(1890)に小松宮彰仁親王が別邸の造営を始める以前の事です。そのころ小浜池はあふれるほど水をたたえ現在の本覚寺(ほんがくじ)裏まで水面が広がっていたと言われています。その小浜池の北に七面堂がありました。小浜池の広瀬神社(四の宮)の小島は、現在は南側から橋が架かっていますが、この頃は北側から陸続きになっていました。七面堂は、三嶋大明神に次ぐ三島宿の観光名所でした。現存する史料が少ないため、三島信用金庫の屏風絵や東海道分間延絵図や本覚寺にあった燈籠などを参考にマンガで再現しました。七面堂は、七面大明神(七面天女)を祀るお堂で、特に女性たちの信仰が篤かったと言われています。現在の楽寿園内の売店の東側の作業所辺りに建っていたものと推定されます。ということで三島の遊女と旅鳥を描き江戸時代のデートスポットにしました(笑)。

せんげんじんじゃ ようがん
浅間神社 (溶岩止めた伝説)



しんふじかざん ようがん いわどめ
約1万年前の新富士火山の溶岩を止めた岩留伝説があった。

伊豆国の二宮で、別名「岩留浅間(いわどめせんげん)」と言われています。境内には溶岩流の痕跡が残されています。鳥居を入れて右手の溶岩に足跡の形をした凹みがあります。これは木花咲耶姫(このはなさくやひめ)が足で止めた跡、との伝説をマンガにしました。考えた末、神様だから素足でいいだろうということで溶岩を素足で止めました(笑)。浅間神社に祀られている神様は、コノハナサクヤヒメ命とハブヒメ命が主神で二ニギ尊・ホデリ命(海幸彦)・ホスセリ命・ホオリ尊(山幸彦)の六柱のです。また、芝本町の氏神様(第六天)が移った芝岡神社もあります。その他、境内には上皇様誕生の石碑や赤ちゃん溶岩塚や三嶋大社末寺の愛染院(真言宗)のものと思われる孔雀明王や妙見菩薩の像など見どころが沢山あります。

げん べ え がわ

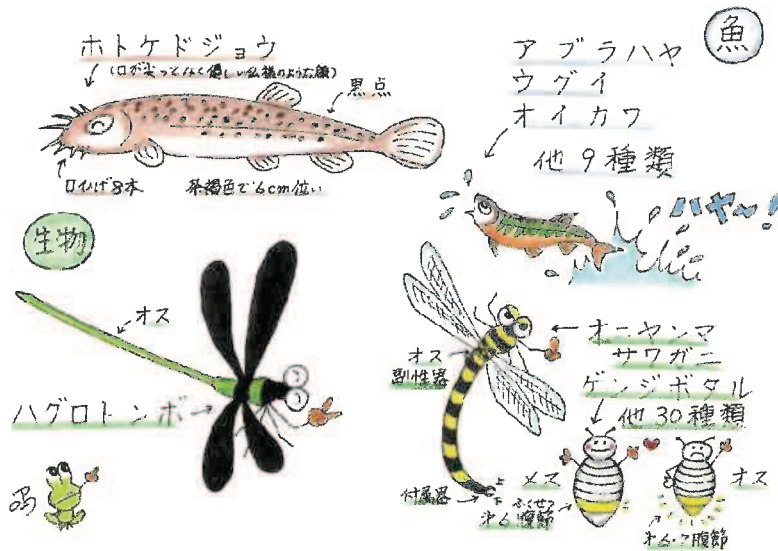
源兵衛川 その1 (世界かんがい施設遺産)



富士山の湧水のこはまがいけから流れ出るしのみやがわ
富山の源兵衛川、そして中郷温水池までを描きました。

富士山から中郷温水池まで、これはマンガでないと描けないと思いました。富士山に降った雨や雪が、新富士火山と古富士火山の間を伝わり、溶岩の隙間から湧き出る小浜池。そこから流れ出る源兵衛川は有名です。源兵衛川は、市民と企業と行政により水辺環境が整備された成功例で、三島の観光の中心となっています。その元祖は四ノ宮川で、源兵衛川は灌漑(かんがい)用水のために四ノ宮川から分かれて造られた川でした。室町時代に寺尾源兵衛(てらおげんべい)によって造られたと言われています。これが源兵衛川の名前の由来となりました。平成28年に世界かんがい施設遺産になりました。源兵衛川には富士山の石がゴロゴロしています。この石は、約2900年前に富士山の東斜面が大崩落しました。この崩落を御殿場泥流といいます。これにより堆積した石が川の中に多くみられます。また、三島梅花藻は有名ですが、ちゃんかけ(茶碗の欠片を捨てること)風習もありました。

源兵衛川 その2 (世界遺産の生き物たち)



源兵衛川には多くの貴重な生き物たちが生息しています。【魚】ホトケドジョウは絶滅危惧種に指定されています。ヒゲが8本あり茶褐色で黒点がみられます。優しく仏様のような顔をしています。アブラハヤやウグイやオイカワなど9種類位魚が見つかります。【生物】30種

類位見つかります。ハグロトンボはよく見られます。黒い羽が特徴でオスは特にきれいでシッポが光沢のある緑色をしています。止まった時に羽を閉じるのも特徴です。その他にオニヤンマ等もみられます。ゲンジボタルは源兵衛川の名物です。毎年6月の初め頃に求愛活動で乱舞します。メスの方が大きくオスは小さいのですが、明るさはオスの方が明るいです。【鳥】カワセミは、源兵衛川の魚を狙います。ヘリコプターのようにホバリング(空中で止まる)出来ます。写真家がいる時はカワセミを見るチャンスです。その他、コシラサギやメジロやヒヨドリなど32種類位鳥が

見つかります。【植物】大変多く、229種類位見つかります。ミシマバイカモは最も有名ですがヤナギモやエビモ・セリ・クレソン・ツリフネソウなどもよく見られます。

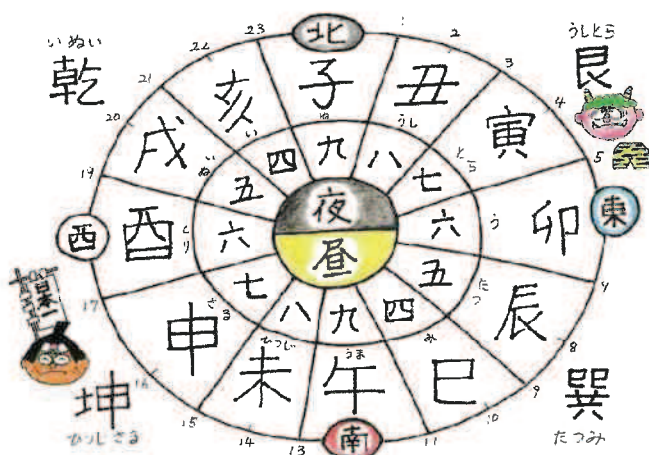


とき かね
時の鐘 (三島宿に時を告げる鐘)



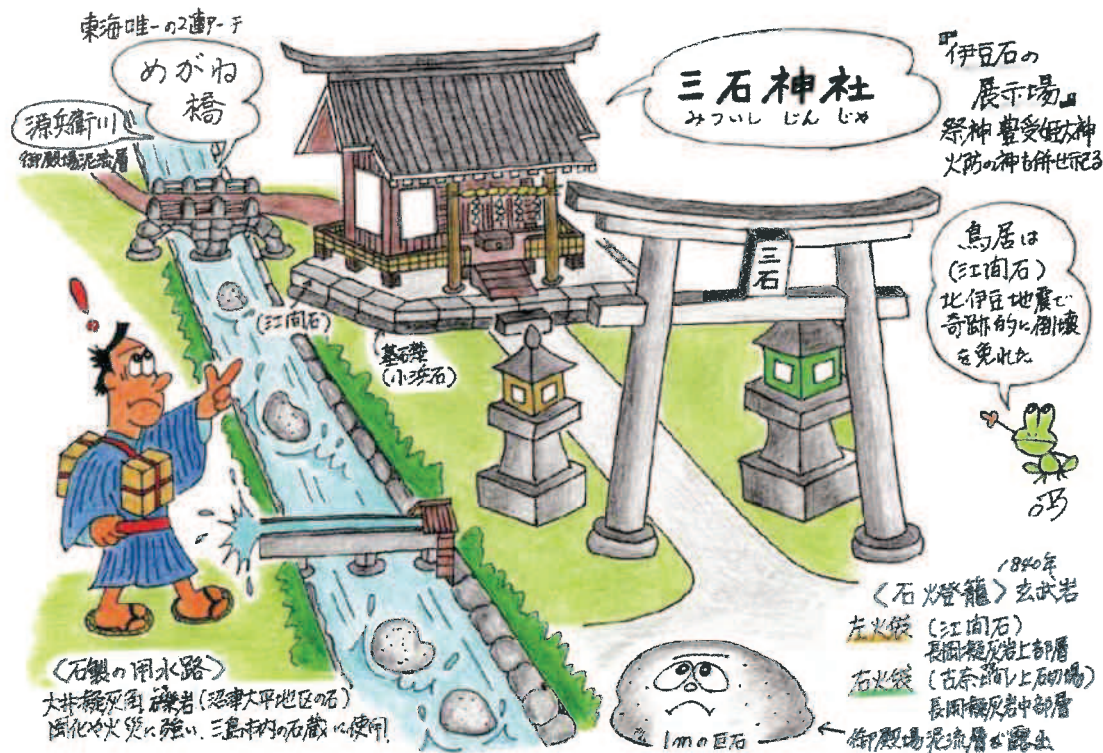
昔の三島宿には、時を知らせる鐘が鳴り響いていました。

三島宿の「時の鐘」は、広小路付近にありました。西見付も千貫樋に移設するまでは、広小路付近にありました。時の鐘は、陽が昇る約30分前に明け六つの鐘が、陽が沈んだ約30分後に暮れ六つの鐘が鳴ります。これを目安に時間配分が決まります。これを「不定時法」と言います。明け六つ暮れ六つに合わせて昼と夜を六等分(約2時間)して時間を決めていたのです。午(うま)の刻は「正午・午前・午後」の語源となっていて、八つ時(午後3時頃)は「おやつ」の語源になっています。武士は子(ね)の刻・丑(うし)の刻などと干支(えと)で、町民は九つ時・八つ時などと数(鐘の数)



で時を知りました。そして時(時刻)は方位(東西南北)や季節(四季)と一緒にした。

みついしじんじゃ いなりしゃ あきばしゃ
三石神社（稲荷社と秋葉社を祀る）

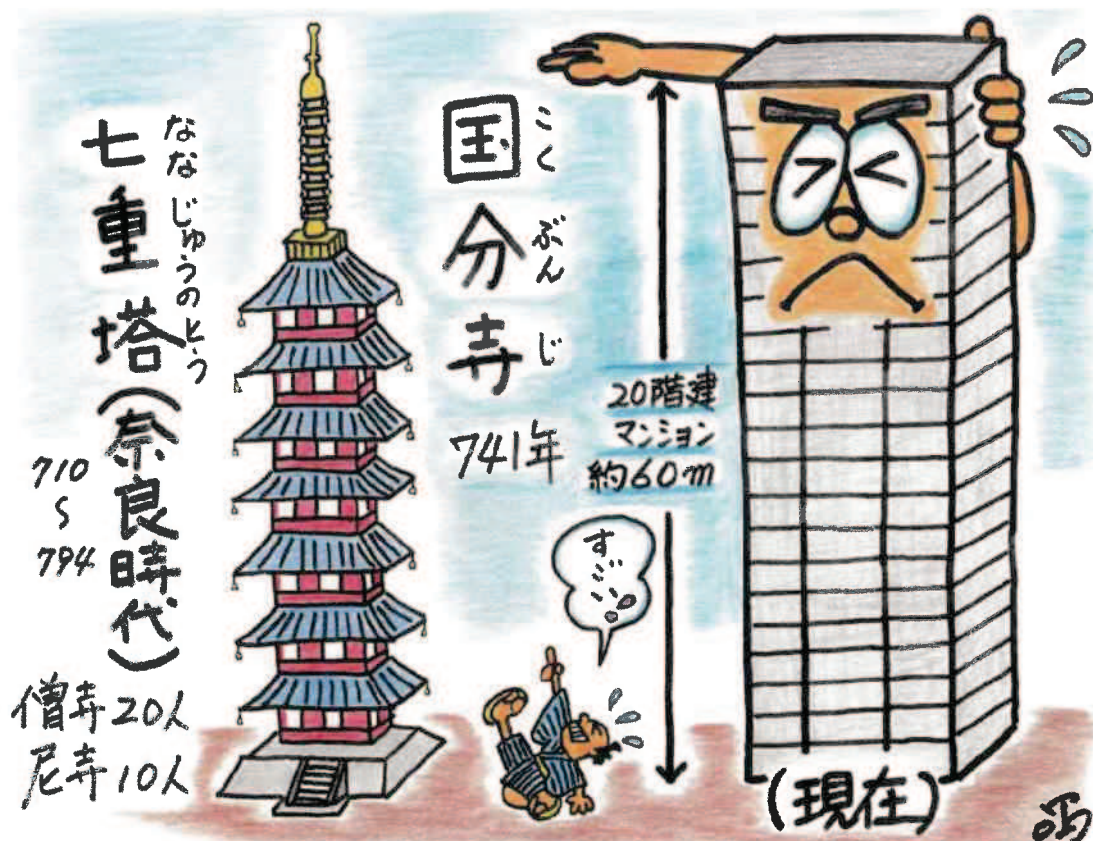


げん べ え かわ とき かね みついしじんじゃ
 源兵衛川沿いの「時の鐘」の奥にある三石神社は三つ

石の上にあったと言われ伊豆石展示場とされています。

ジオツアー三島での増島先生の話をもとにマンガを描いてみました。観光ガイド
 でお客様に分かりやすく伝えるためかなり誇張しました。石燈籠(常夜灯)は左右
 大きさの違いが分かります。富士火山の玄武岩(げんぶがん)で出来ていま
 すが火袋は長岡凝灰岩(ながおかぎょうかいがん)で、緑色(長岡凝灰岩の中部層
 の石)と茶色(長岡凝灰岩の上部層の石)です。本殿の基礎石は下の黒色(小浜石・
 玄武岩)と上の灰色(江戸石・長岡凝灰岩)とを色分けしました。鳥居は江戸石で奇
 跡的に倒壊を免れました。石の用水路は大井凝灰角礫岩(おおいぎょうかいかくれ
 きがん)です。源兵衛川の中には、約2900年前の御殿場泥流(でいりゅう)により
 運ばれた石の数々を目立つように配置しました。従って石製の用水路等は多少位
 置関係は異なります。手前の1mの巨石は御殿場泥流の石が露出したものです。

い ず こくぶんじ ななじゅう とう
伊豆国分寺 (七重の塔)



奈良時代(741年) ^{しょう むてんのう こっかちんご} 聖武天皇が国家鎮護のため国ごとに
^{ななじゅう とう こくぶんじ こくぶんじ} 七重の塔を含んだ国分寺と国分尼寺の建立を命じました。

国家鎮護とは、災害や飢餓(きが)や疫病(えきびょう)主に天然痘(てんねんとう)や内乱を鎮めて国を護ることでした。三島には国府があったと言われ国分寺と国分尼寺が建立されました。七重の塔は高さが約60メートルもあったと言われています。その礎石が8個残っています。礎石は御殿場泥流の玄武岩ですが、心礎と残りの8個は残っていません(全部で17石)。心礎は小松宮様が茶室の庭の「つくばい」に使われたと言われていますが、行方不明です。全国の国分寺の頂点は奈良東大寺で、国分尼寺は奈良法華寺です。伊豆国分尼寺は平安時代に焼失し現在の三島の法華寺や祐泉寺辺りに代用国分尼寺として移設されました。江戸時代、国分寺は蓮行寺と言われ東海道に繋がる道を阿闍梨(あじゃり)小路と言っていました。

せんがんどい

千貫樋 その1 (三島宿の観光名所)



せんがんどい いず するが

さかいがわ

とい

千貫樋は伊豆と駿河の国境にある 境川に架かった樋です。

境川は、伊豆国と駿河国の境にある川です。天文23年(1554)相模・伊豆国(北条)と駿河国(今川)と甲斐国(武田)を支配する三家が三国同盟を結びました。その後、お互いに娘を嫁がせました。その際、北条が支配する伊豆国から今川が支配する駿河国へ、嫁いだ娘の引き出物として、伊豆国の小浜池から用水路を築き、境川に樋を作って水を送ったと言われており、それにより田畑が潤い「千貫に値する樋だ」と、いうことで千貫樋の名の由来になったという説があります。江戸時代の「東街便覧図略(とうがいべんらんずりゃく)」天明6年(1786)の説明文には「ここに茶屋ありて千貫樋の蕎麦切(そばきり)と名高りし(なだかりし)由(よし) 今は見えず」と、あります。従って、茶屋があり、かつて千貫樋の蕎麦切という有名な蕎麦職人が居たことが分かります。三島宿の観光名所でした。江戸時代の旅人が千貫樋から富士山を眺め、茶屋で蕎麦を美味しそうに食べる光景が目につかびます。

せんがんどい
千貫樋 その2 (三島女郎衆)



三島信用金庫に残されている屏風絵の千貫樋の三島女郎
衆は、三島女郎衆の描かれた数少ない貴重な屏風絵です。

三島信用金庫に保存されている屏風絵の千貫樋付近に、提灯(ちょうちん)持ちと、島田結(しまだゆい)の女郎衆二人が描かれています。夜雨(よさめ)のロケーションです。これは、女性がきれいに見える条件といわれる、夜目・遠目・傘の内を描いたものです。それを、マンガで再現しました。屏風絵はもっと遠目に描かれていましたが、よく分からないのでマンガでは分かりやすくしました。雨が降る夕暮れの雰囲気を出すのに、小田原提灯に明かりを灯し、雨を描きました。手前が姉さんで、少し傘で顔を隠した半玉(はんぎょく／若い芸妓)を描きました。差している傘は蛇の目傘(じゃのめがさ)です。広げると蛇(へび)の目のような模様になるので蛇の目傘といいました。三島は和傘の町で、三島傘という和傘が町中に多く干されていました。それと、千貫樋の川は、昔は水源が左方向にあったと思われます。

にしみつ け ひ よ ひきやく
西見付 (火除け土手と飛脚)



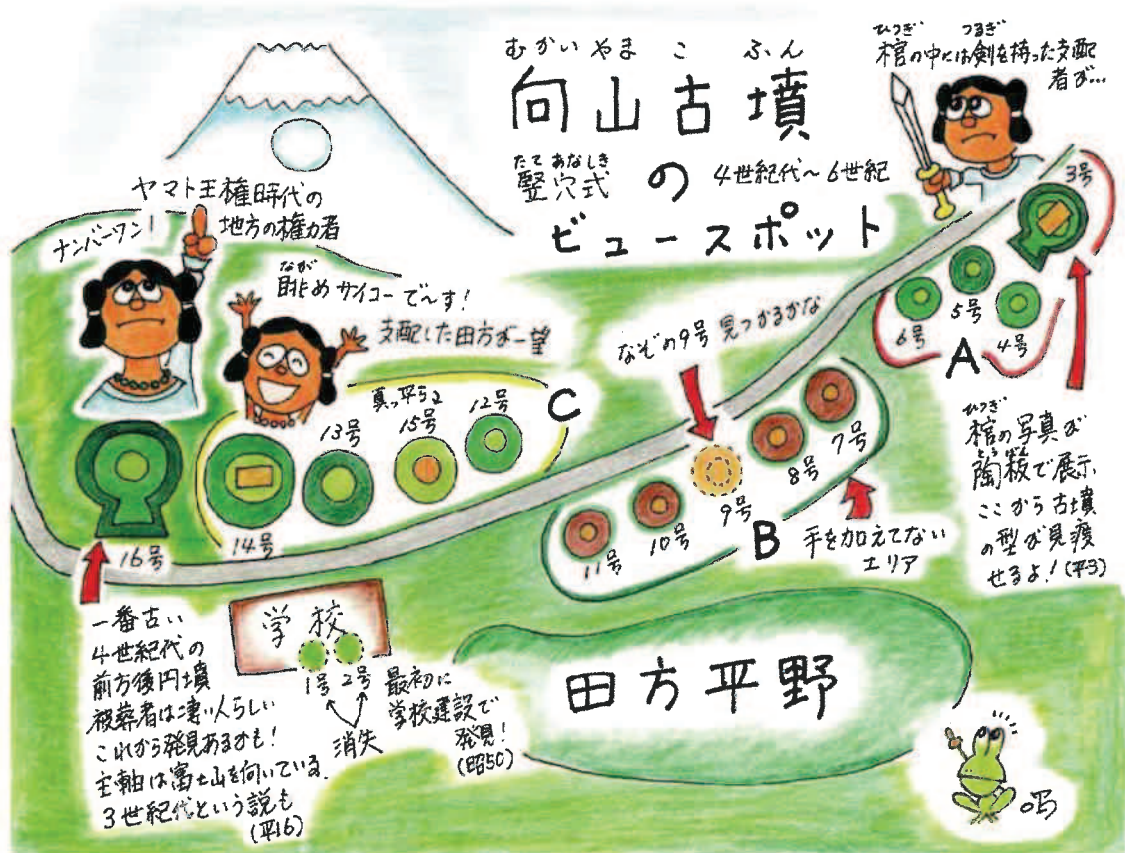
これがマンガ案内の最初のきっかけとなったマンガです。

にしみつ け ひ よ ど て ひきやく
西見付の火除け土手と飛脚を描きました。

西見付とは、東海道三島宿の西の入り口のことです。千貫樋付近にありました。火除け土手は火事を防ぐための土手です。昔の絵図ではよく分からないので、分かり易くマンガにしました。火除け土手は「食い違い(くいちがい)土手」と言って、土手が食い違っています。ですから、先を急ぐ飛脚も「大変だ！真っすぐ行けないじゃん！」とあわてています(笑)。火事を防ぐため道に造った土手ですが、人を通すためにあえて互い違いに土手を造ったのでしょう。それを理解して頂きたくて「飛脚」を描きました。三島宿は貞享2(1685)から元禄10年(1697)までに4回も大火がありました。そこで、元禄10年に広小路に食違い土手を作りましたが、茶町や木町の町民から「こちらにも」と、不満があり、正徳元年(1711)に千貫樋付近に西見付と共に移設しました。土手の石垣の一部が秋葉神社に残されています。

むかいやまこふんぐん

向山古墳群（16号墳の発見）



むかいやましよう

昭和50年に向山小学校の建設現場から4～6世紀頃

もっかんちよくそう

の木棺直葬（1号墳と2号墳）が発見されました。

最初の1号2号の古墳は消失し、その後3号墳から眺めのいい14号墳まで12の古墳が発見されました。平成13年(2001)に真っ平で発見が遅れたという15号墳、平成16年(2004)に16号墳が発見されました。この16号墳は、ヤマト王権時代のかなりの権力者の墓らしいことが分かりました。3世紀中頃のものという説もあります。3世紀といえば、中国では魏(ぎ)・呉(ご)・蜀(しょく)の三国志の時代でした。有名な魏志倭人伝によると3世紀半ば(247)に卑弥呼(ひみこ)が亡くなり大和朝廷の有力者の古墳が築かれ始めた頃です。そんな貴重な古墳ですが、現在未だ発掘調査はしていません。発掘が楽しみな、ロマンあふれる前方後円墳です。

なつめぎこふんぐん よこあなしきせきしつ
夏梅木古墳群 (横穴式石室)

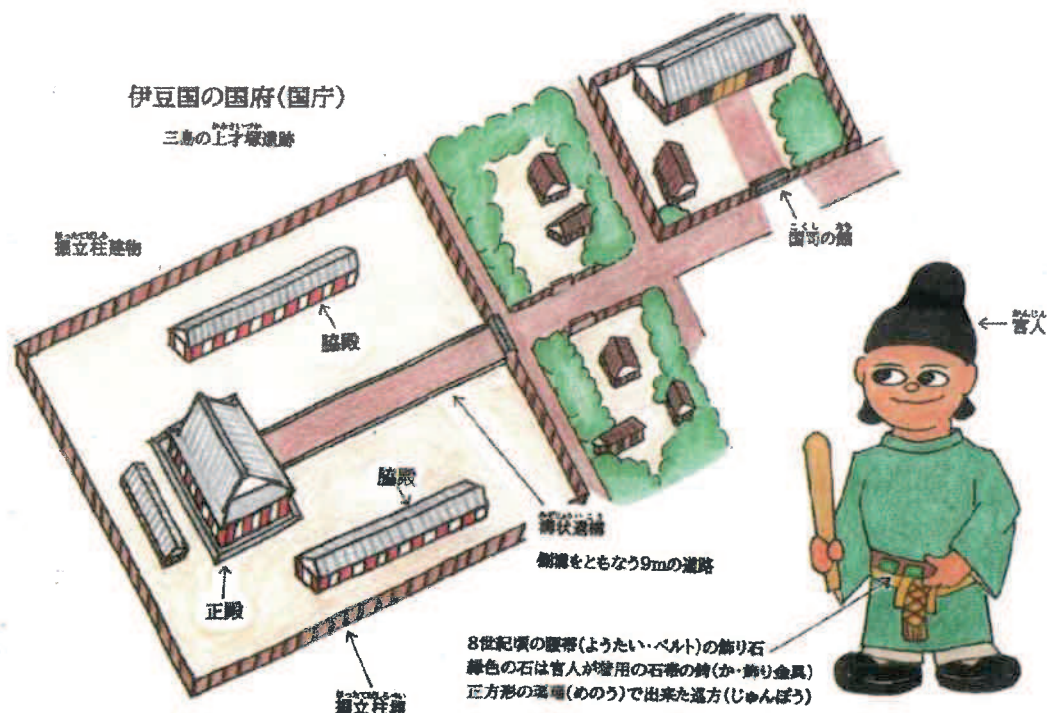


にしきがおかじゅうたくだんち
三島市錦ヶ丘住宅団地造成時に7世紀頃の19の古墳が

発見されましたが現在見学できるのは2つの古墳のみです。

発見された19の古墳の内、6号墳と2号墳が残されています。6号墳は6世紀末に築造され、7世紀の半ばころまで追葬が行われていた可能性があると言われていた横穴式石室の古墳です。葬られた人の権力の大きさを示す金銅の飾太刀(かざりたち)が見つかっています。2号墳は、発掘中に、当時学習院中等科に在籍中の皇太子さま(現・上皇さま)が発掘のご視察をされ、発掘のお手伝いもされました。その時に古墳時代の直刀(ちよくとう)を皇太子さま自ら取り上げられました。6世紀末の中国は隋(ずい)の時代で607年には小野妹子(おののいもこ)が遣隋使(けんずいし)として派遣されています。やがて隋が滅び唐(とう)の時代になると遣唐使(けんとうし)が盛んに派遣されるようになります。そんな時代の古墳です。

伊豆国の国府（国庁・国司の館）



古代国家の三島に存在したと思われる国府（国庁）や国司の館や官人の腰帯の飾り石などをマンガにしました。

かつて三島に存在したと考えられている古代国家の国府の国庁の存在は未だ明らかではありませんが、伊豆国の拠点の国府があったことは発掘調査で徐々に明らかになってきました。国府(国庁)を推定すると、下田街道東側の本妙寺付近が挙げられています。そのほかには芝本町の長圓寺(ちょうえんじ)のかつて鷹部屋(たかべや)と呼ばれた辺りも候補地となっています。下田街道の東側の上才塚(かみさいづか)には、南北に走る道路状の遺構が見つっています。また、その南側には国司館(こくしのたち)の跡の一部と推定される掘立柱建物跡が見つかりました。その他官人が着用する腰帯(ベルト)用の瑪瑙(めのう)製の飾り石の巡方(じゅんぽう)なども見つっています(郷土資料館企画展「古代伊豆の国」／参考文献)。

参考文献

- 「三島宿風俗絵屏風」天保年間 三島信用金庫蔵
- 「東海便覧図略」高力猿猴庵筆 名古屋市博物館蔵
- 「三島宿街道絵図」(幕末～明治維新頃)三島市郷土資料館蔵
- 「五海道中細見記」三島市郷土資料館蔵
- 「東海道分間延絵図」東京国立博物館蔵
- 「根府川通見取絵図」(五街道分間延絵図)児玉幸多監修
- 「東海道宿村大概帳」(天保14年)児玉幸多編
- 「三島朝霧」(広重「保永堂版 東海道五拾三次」)歌川広重
- 「ふるさと三島 東見附から広小路まで歴史探訪」伊豆史談会 土屋壽山
- 「ジオツアー三島宿の成果―三島宿のジオポイント20選―」増島淳
- 「杢太郎の周辺の系譜」(杢太郎会)瀬川浩
- 「楽寿園」「楽寿館」三島市楽寿園
- 「三島市誌」(上巻)三島市誌編纂委員会
- 「三島市誌」(中巻)三島市誌編纂委員会
- 「三島市誌」(下巻)三島市誌編纂委員会
- 「三島アメニティ大百科」グランドワーク三島編集
- 「三島の歴史とジオポイント」増島淳
- 「三嶋暦とせせらぎのまち」三嶋暦の会編
- 「三島宿を支えた人々」三島市郷土資料館創造活動事業実行委員会
- 「三島宿研究会二十周年記念誌」(江戸時代三島宿基礎史料特集)三島宿研究会
- 「三島竹枝」第23詩「あの人は筋違橋辺り」杉田呑山
- 「あるご」第38巻第442号(三島由紀夫について)藤岡武雄
- 「向山古墳群公園」「夏梅木古墳群」三島市教育委員会
- 「日本の城」No.32「山中城の戦い」デアゴスティーニ二刊
- 「東常縁から宗祇への古今伝授に至る背景」伊豆史談会 土屋比都司
- 「宗祇法師」三島宗祇法師の会(会報第1号) 藤岡武雄
- 「古代伊豆国一国府と国分寺―」三島市郷土資料館企画展

あとがき

この著書のきっかけとなった三島市郷土資料館での「三島宿のジオと歴史～写真とマンガで見る～」企画展は、コロナが始まった年の2020年の7月でした。この年の東京オリンピックは一年延期され、無観客で開催されました。かつて開催された昭和39年の東京オリンピックは日本が高度成長に向かう希望に満ちたオリンピックでした。中学生になったばかりの私は、この頃、夜な夜なマンガを描いていました(笑)。しかし、オリンピックは欠かさず見ていました。そして日本のお家芸の柔道の無差別級で日本の威信を背負った神永昭夫がオランダのヘーシンクに抑え込まれ負けた試合に涙しました。柔道や相撲のような日本の国技は小さい者が大きい者を倒すことに魅力がありました。しかし、国際的には体の大きさには勝てないことがこの試合により分かりました。それでも、日本の「柔よく剛を制す」の美意識は私の根底にありました。昔から日本には、このような素晴らしい文化があります。そんな意識から、かつての三島の素晴らしい文化・歴史を分かり易く伝えたいという思いが積もり、「マンガで描いた三島の歴史」を描きました。そして、温故知新という言葉がありますが、昔のことを学び考えて新しいことに役立たせることの大切さを感じていただければと思います。私の座右の銘は「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをゆかいに、ゆかいなことをまじめに」と、言う井上ひさしの言葉です。特に、「むずかしいことをやさしく」は、難しいです。やさしく伝える為の努力をこれからもして行きたいと思います。いつの時代にも人々は、幾多の苦難を乗り越えるために共に支え合い助け合って生きて来ました。時代が変わっても、共に生きる共生の心は変わらないと思います。先人の残した足跡が歴史です。三島にも沢山の歴史があります。そんな歴史を皆さんに伝えられればと思います。そして、少しでも皆さんの、お役に立てたら幸甚です。

2024日3月吉日 著者

一藤木秀光(いっとうぎ ひでみつ)

1951年生まれ

三嶋暦の会副会長 三島市歴史まちづくり協議会委員

FM 放送三島函南番組審議会委員ほか

著書「マンガで描くふるさと三島」(2020)

増訂版「マンガで描くふるさと三島」(2021)

絵本「こよみ姫 太陽暦の巻」(2020)

絵本「こよみ姫 三嶋暦の巻」(2021)

絵本「こよみ姫 続・三嶋暦の巻」(2021)

新装改訂版「マンガで描いた三島の歴史」(2024)

マンガパンフ「江戸時代の三島宿の観光スポット」(2021)

マンガ表紙絵イラスト 他

マンガで描いた三島の歴史

2020年 9月 1日第1刷発行

2020年11月 1日第2刷発行

2021年10月 1日第3刷発行(増訂版)

2024年 3月20日第4刷発行(新装改訂版)

著者 いっとうぎ ひでみつ
一藤木 秀光

静岡県三島市南二日町 23-54

発行 みしまごよみ
三嶋暦の会

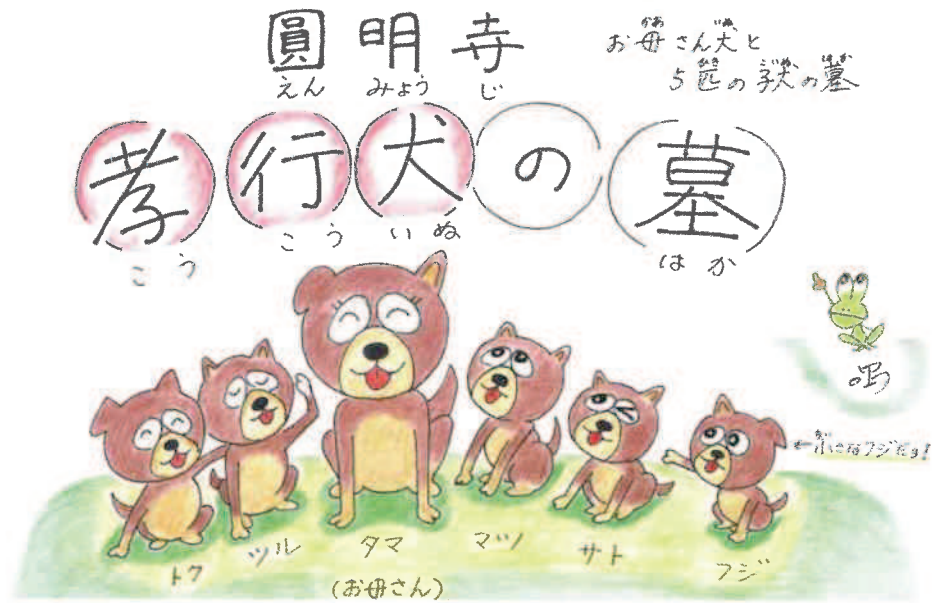
静岡県三島市大宮町 2-5-17

協力 静岡県地学会東部支部

三島市郷土資料館

三島市観光協会

お母さん犬と5匹の子犬の墓



圓明寺には孝行犬の墓があり親孝行な犬達の物語が残っています。



© Hidemitsu Ittougai 2024

マンガで描いた三島の歴史